

平成23年度第2回富士見市スポーツ推進審議会 議事録

日時：平成24年3月19日(月) 午後7時30分～9時30分

場所：教育委員会 会議室

出席者：(委員) 清水会長、山口副会長、押田委員、谷澤委員、佐藤委員、大竹委員、猿渡委員 欠席2名
(事務局) 永瀬課長、加藤副課長、高見、岡本(事務局)

資料：①スポーツ推進審議会条例 ②生涯スポーツ推進事業(概要) ③H23年度主要施策報告
④平成24年度生涯学習課スポーツ予算概要 ⑤補助金交付に関する資料(市体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、スポーツフェスティバル、地区体育祭) ⑥スポーツ基本法に関するリーフレット ⑦平成24年度富士見市教育行政方針

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題(進行：会長)

(1) 報告事項

①スポーツ推進審議会条例(旧：スポーツ振興審議会条例)の改正について
…資料1に基づき概要説明

②平成23年度生涯学習課スポーツ主要事業
…資料2、資料3に基づき概要説明

③平成24年度生涯学習課スポーツ関係予算(スポーツ関係団体への補助金交付に関しての意見聴取)
…資料4、資料5に基づき概要説明

【質疑・意見】

委員：激励金について周知はしているだろうか。知らなくて申請していない場合があるのではないか。今後更なる周知を図るべきでは。

委員：激励金は部活動も対象なのか。

事務局：学校や中体連が関係するものは学校教育課、その他は生涯学習課が所管している。

委員：地区体育祭補助金は1学校区につき110,000円だが、交付の手続きの際、補助金が足りないという声はないか。

事務局：これ以上金額が下がると体育祭の開催ができないという声は聞いている。

(2) 協議事項

①富士見市のスポーツ推進について(意見交換・スポーツ基本法施行を受けて)
…資料6、7に基づきスポーツ基本法及び平成24年富士見市教育行政方針について説明

●主な意見等は次のとおり

委員：資料の中に施設提供の充実という言葉が出てくるが、施設の充実とは別の捉え方なのか。

事務局：学校開放事業において今まで対象ではなかった土曜日を今年度から開放の対象にしたことや、運動公園の先行予約において来年度から市内団体がより優先される仕組みにすることなどと捉える。

委員：スポーツ基本法の中で子どもの体力にかかわる部分としては、「体育授業の充実」と「教員の資質向上」の2点が言及されているが、1週間に3時間しか体育の授業が無い中で、何が出来るのだろうか。学校でも様々な取組みを行っており、走力・跳力・持久力はどうにか平均レベルまで持ってきているが、投力・柔

軟性・握力は最も低いレベルである。投力については、子どもがサッカーをし、野球をやらなくなったことが大きい。ボールを投げること、キャッチすることがほとんどできない。それに加えて、子どもが遊ばない、遊び方を知らない。子どもの体力が著しく低下している。サッカーは校庭全域を使い、15～16人でサッカーをして、他の子どもが入れない状態を作り出すことにもなる。ある学級、学年だけが校庭を使用しているので、どの時間はどの学級・学年が使用してよい、というような住み分けを行わねばならないのが現状だ。そのような中で、「体育事業の充実」「教員の資質向上」とだけ言われ、そこに限られてしまうとどうにもならない。子どもの体力は地域ぐるみで考えなければならない問題だ。体力向上は非常に重要なことであるのに、それが落ちてしまっている。

委員：川越は市をあげてドッジボールに取り組んでいる。スポーツ推進委員はスポーツフェスティバルでドッジボールにかかわっているが、富士見市の子ども会連合会は川越のスポーツ推進委員に審判の依頼しており、川越のスポーツ推進委員から「富士見市でもやれるようにしたらどうか」と言われ、講習を受けに行ったが、審判資格の維持の課題などもあり、継続して取り組むのは難しい現状がある。

委員：市内の教員はスポーツフェスティバルを重視して、大会に参加しているが、それを見ると、子どもがボールを投げる、キャッチする能力がかなり低下しているのが分かる一方、その向上にもつながっている。

委員：体育指導委員が推進しているバドテニスについて、学校のクラブ活動に採用されれば広まる。

委員：学校の現場では、子どもの投力を上げることをテーマとした研修も行っており、ハンドボールを広めようとも考えている。

委員：大崎オーソールの試合の開催頻度を上げることができたらなお良いのではないかな。

事務局：試合の前にハンドボール教室を開催していることもある。

委員：子どもの体力が落ちているのは、やはり外で遊ばないからか。

委員：それは大きい。また、子どもたちは野球のルールを知らず、やらせようと教える間に飽きる。

委員：親と子どもと一緒に遊ばないのも要因だ。

委員：地域子ども教室でTボールをやるが、子どもはバットを振らないし、振っても当たらないため、テニスのラケットで振らせることになる。野球を教えると飽きてやめてしまう。

委員：今の子どもは自ら遊ばず、何かを与えないと遊ばない。

委員：やらせないとやらない。自分たちでやらない。地域こども教室で、6年生に1年生と遊ばせているが、遊び方を知らないため、それができない。体力向上は遊びから。スポーツ推進は子どもを巻き込まねばならない。

委員：縄文マラソンが成人式の日と重なってしまうのはどうにかならないだろうか。

事務局：例えば1日前にすると消防の出初式と重なったりする。別の日に開催してほしいという声は確かにある。

委員：体育協会において、AEDの講習を3月に受ける。継続して協議しているところだが、河川敷の運動公園にAEDが無いのが課題だ。

事務局：検討中だが、上限温度とか、盗難、紛失等の課題があって、設置には至ってない。

委員：学校現場でもAEDは重要な問題となっている。

事務局：河川敷の運動公園は常時設置が難しいので、門の開閉及び巡回警備を業者委託しているので、そのAEDを持たせ、開場時に設置、閉場時に持って帰るといったことはできるかもしれない。

(3) その他
特になし

4. 閉会